

取り組みの背景・目的

森林は多面的機能を有した大切な資源であり、広域的かつ長期的に森林を管理していくには、民国が一体となって地域の森林づくりを進めることが重要であると考えられます。

このことから、民有林関係者の意見を参考のうえ、2年間に亘って、林業技術の情報共有を行う場である勉強会を開催をいたしましたので、その結果と考察を発表します。

内容・成果

各年度とも地域の民有林関係者への聞き取り又はアンケート調査により、実施内容の検討を行い勉強会を実施しました。

令和4年度勉強会

一貫作業システム及びドローンの勉強会を実施しました。参集範囲は地元の各自治体及び振興局森林室としました。

勉強会終了後にはドローンを導入した自治体も見られたことから、因果関係があるとは断言できないものの、ポジティブな影響を与えた可能性が考えられます。



「写真1：ドローン起動による紹介」

令和5年度勉強会

令和4年度のアンケート結果を踏まえて、造林の低コスト化に向けた勉強会を実施しました。参集範囲は前年度と同様に、地元の各自治体及び振興局森林室に加え、より地域に密着するため地元の森林組合についても声掛けを行い、低密度植栽と下刈り省力化をテーマとして現地において行いました。

低密度植栽については、低密度植栽の概要、メリット、活着率等に及ぼす影響、他地域での事例の紹介を行いました。下刈り省力化については、下刈り機械の利用と下刈り回数削減の二つに大別し、それぞれ具体的な内容について説明いたしました。

事後アンケートによると、紹介した林業技術の導入に対する関心度が高く、ポジティブな印象を持たれているといった結果が大半を占めていたことから、有意義な勉強会になったものと考えられます。

これらの取り組みは、今年度の林業普及指導員北海道・東北ブロックシンポジウムでも紹介をいたしました。



「写真2：勉強会の様子」

まとめ・今後の展開

2年間の勉強会は、単に国有林の技術を紹介したのではなく、林業技術の共有という観点からも、地域林業の発展に向けた地域交流の一助になったものと思料します。

今後においても、地域の要望を伺いながら、署内サポートチームにおいて、「地元の国の出先機関として出来ること」を模索して、地域に密着した森林づくりに取り組んでいきたいと考えています。